

NiiGATA

生涯学習にいがた

No.25
1999.7



和やかな雰囲気の出前行政講座(広神村)



熱心に創作活動に取り組む(新潟市)

主な内容

P6 生涯学習最前線
生涯学習の基地紹介

特集

P2・3 県立生涯学習推進センター
の事業紹介

P4・5 きょうは、わたしが先生です

P7・8 学習相談と学習情報提供の
あり方
はい!学習相談室です

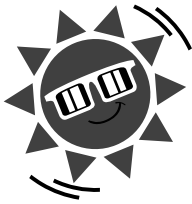
特集

学習振興課

県立生涯学習推進センターの事業紹介

自分の希望する学習を見つけてみませんか
いきいき県民カレッジの拡充

平成四年から開学した県知事学長とする「いきいき県民カレッジ」も八年目に入り、ますます内容が充実してきました。
「いつでも、どこでも、自分の希望するものを学びたい」という県民の要望に応えるために実施機関の協力を得ながら実施している事業です。
平成十一年七月現在協力いただいている実施機関は一一七機関あり、総講座数は七八六講座です。
一時間一単位が認定され、取得単位数に応じ六種類の奨励証が付されます。
なお、平成四年から十一年三月までにカレッジを受講された方は一三〇、六三七人です。
今後実施機関の御理解と御協力を得ながら、いきいき県民カレッジの充実を図っていききたいと考えています。



学校教育に向けた発信
完全学校週五日制に向けた研修内容

今年度は、市町村の行政担当者向けの研修の充実を図るほかに、「完全学校週五日制、総合学習の導入に向けて学校と地域社会がどう連携していけばよいのか」に焦点を当てた研修の充実を図っています。
特に、「生涯学習関連施設職員等研修会」には、多くの教員の方が参加しています。
今年度初めて生涯学習に携わることになった行政職員対象の「生涯学習指導者研修会初級コース」、生涯学習担当経験者対象の「生涯学習指導者セミナー」いずれにおいても、学校と地域社会の連携に焦点を合わせた研修をプログラムに組み入れています。



多くの参加ありがとうございました
県民の皆さんを対象にした事業のいくつかを紹介いたします

・新潟ふるさと人物講座
今年度は郷土に深くかかわりのある人物に目を向け、新潟県の先人達の言みを次世代に伝え、ふるさと新潟についての理解を深めます。
「会津八一」「富岡惣一郎」「鈴木牧之」「宮 柊」「相馬御風」、そして特別公開講座として「落谷虹児」の計六人に光を当て、その業績と人となりとともにふるさとのかかわり方を学びます。
現在二一三人の方が受講しています。
なお、特別公開講座は十一月七日(日)の午後一時半から三時半まで中条町産業文化会館で開催します。
募集要項は十月初旬に出ますので、別途申込みください。



・女性リーダー研修
今年度は会場を新潟市から佐渡郡金井町に移しました。
高齢社会・介護の問題を切り口に「女性も男性も共によりよく生きる社会とはどうあるべきか」について学んでいます。
佐渡島内の方を中心に四十名の方が受講しています。

・すこやかコール子育て電話相談
乳幼児から青少年までの子どもをもつ親を対象に、子育ての悩みや不安の相談に応えます。
匿名で結構ですし、秘密は守られます。

Table with 3 columns: Day, Time, Content. Content includes childcare, family education, maternal health, and general childcare.

すこやかコール 025-283-1150

専門家のカウンセラーによるカウンセリング申込みも受け付けています。
申込先は、電話相談・カウンセリング共に、
〇二五二八三一一五〇(イイコヲ)

学習情報課

生涯学習に関する総合的な情報の提供
～ラ・ラ・ネットと
ニルス・プラン～

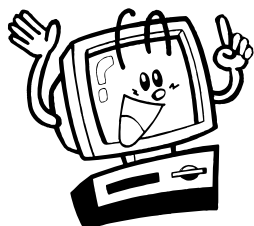
ニルス・プラン

県民が、いつでも、どこでも、生涯学習に関する情報を手に入れることができるようにと、コンピュータ・ネットワークを利用した情報提供システムを構築し、運営してきました。

講座やイベント等の案内情報は、インターネットとパソコン通信の両方で提供しています。(ラ・ラ・ネット)また、県立近代美術館の所蔵作品など学習に利用できる資料はインターネットで提供しています。(マルチメディア・データベース)

情報の収集や更新が、本システムの命です。推進センターでは、情報収集に努めています。

現在、インターネット端末からラ・ラ・ネット情報の一括登録・修正が行えるよう、プログラムの改良を進めています。市町村においては、ホットな情報をできるだけ早く登録していただけるよう、研修の機会を設けたり、視聴覚教育主事共々サポートにあたっています。



生涯学習に関するさまざまな悩みに応じます
～学習相談～

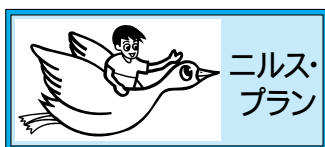
学習相談

生涯学習関係者や県民からの相談は年々増えています。

ここ二・三年は、県内のさまざまな講師や指導者などの人材情報の収集・整理、ならびに「学社融合」「男女共同参画」といった現代的課題に応じた学習プログラムの収集・提供に力を入れています。

資料閲覧室には、上記の資料が見つけやすいように整理されています。また、県内の全市町村や全国都道府県の情報ボックスもあり、誰でも自由に資料を見ることが出来ます。

その他、新潟県内や東京都の美術館・博物館等のパンフレット、旅行雑誌などがそろっています。(詳しくは八頁をご覧ください)



新しい情報メディアを活用した生涯学習の支援
～マルチメディア・データベースと遠隔学習～

マルチメディア・データベースと遠隔学習

県内の社会教育施設が所蔵している作品や資料(映像、音声、動画)をインターネットで提供しています。簡単な検索方法で、あなたにも利用できます。

また、テレビ会議システムを用いた「遠隔学習」を企画したり、コデイネットをしています。公民館や学校の学習者の要請を受けて、相手役となる社会教育施設を探し、紹介しています。

詳しいことや遠隔学習を希望する場合は、当センターまでお問い合わせください。



地域の視聴覚メディア利用環境整備担当者の資質向上を目指して
～視聴覚教育
メディア研修～

視聴覚教育
メディア研修

視聴覚教育メディア研修が変わります。

この研修は、生涯学習の立場で、行政及び社会教育施設や学校でマルチメディアを中心とした各種メディアの利用環境を管理・運営する立場にある職員の知識と技能の向上を目的として実施されるものです。

研修が概論(二日間)と特論(二日間)に分かれました。概論では、ネットワーク構築とセキュリティ問題、著作権に関わる問題、各種メディアを利用した事例等について研修します。

特論では、ホームページの評価と作成を中心に実技研修を行います。



ホームページでも情報を提供しています。 <http://www.lalanet.gr.jp/nlpc/index.html>

しが先生です

いたします。一つは、人材情報バンクを設け地域の人材を積極的に活用している三和村の事例を紹介いたします。

【津南町】

学校は、すでに学校独自の「人材情報網」をもって、地域の方から協力いただいているところが多いと思います。しかし、子ども達の学習意欲が高まるにつれて、学校が把握している人材情報だけでは、子ども達の学習要求に十分応えられない場合があります。また、小規模校は（津南町の全小中学校のうち、七十%が小規模校です）中・大規模校に比べて学区内の人材情報が限られています。

町には「津南町人材バンク」があり、専門的な知識や経験をおもちの方が百六十名ほど登録されています。その他にも、

- ・ 各種生涯学習サークルに入り、楽しみながら自分に磨きをかけている人
- ・ 自分の経験や特技を伝えたいという意欲をおもちの高齢者のみなさん
- ・ 自分の特技や経験なんてたいしたことではないと謙遜しておられる町民の方などが大勢いらっしゃいます。こういった方々すべてを津南町では学校支援ボランティアの人材情報網ととらえています。ボランティア探しは骨の折

町民先生大活躍

学校支援ボランティア派遣制度

れる仕事です。なかなか見つからず、途方に暮れそうなききもあります。でも、不思議なことに必ず見つかります。行政職員と町民との日々のふれあいの成果なのです。

学校が独自にボランティアを探して交渉しても、制度に適用されるようにしていません。もちろん、ボランティア派遣要請を断ることも自由です。

このような自由なスタンスです。ある校長先生が「このゆるやかな考え方がいい」とおっしゃいました。

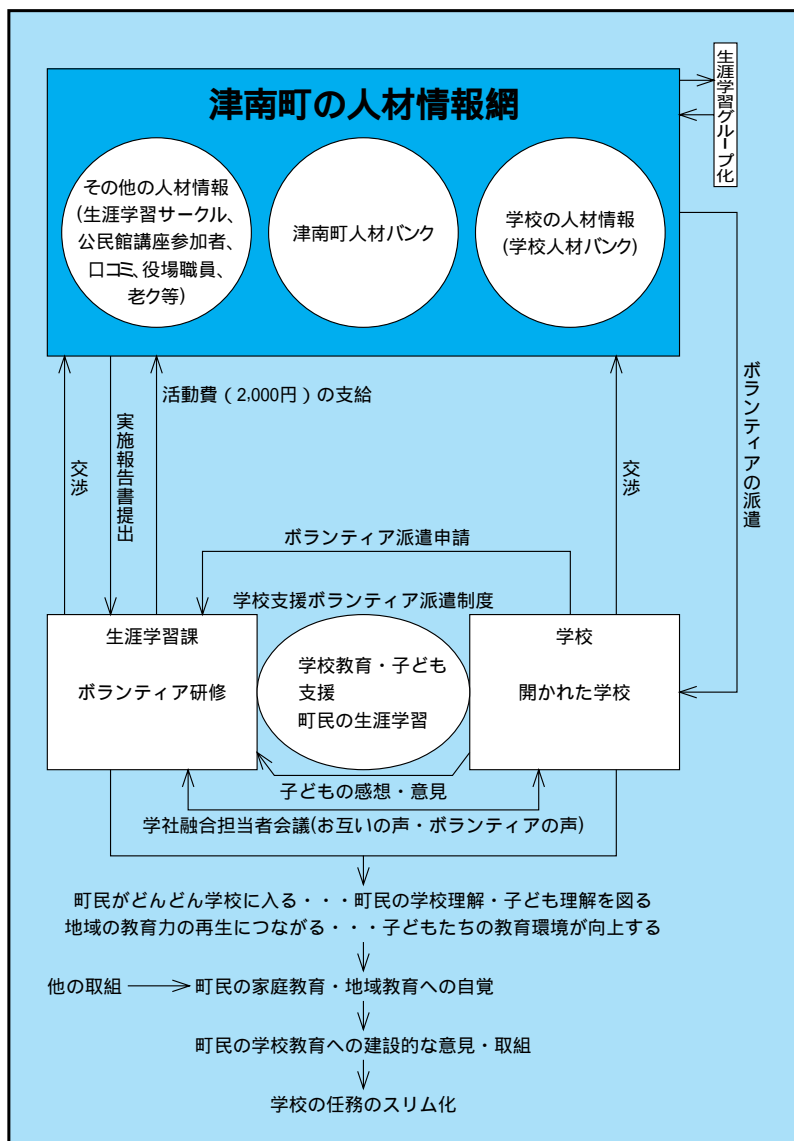
この制度を通して、

- ・ 子ども達の学習意欲に応える
- ・ 町民の生涯学習の場
- ・ 子ども達への地域の教育力のアップ

の二石三鳥効果を期待しています。

ます。

今年度は、派遣されるボランティアを対象にボランティア研修を実施する予定です。ボランティアの資質を向上させるとともに、ボランティア自身の声をこの制度に反映させて、学校「子ども」ボランティア（町民）にとって有意義な制度に発展させていきたいと思えます。



きょうは、わた

今回は、地域の人材を活用した学習プログラムを二つ紹介
活用している津南町の事例、もう一つは、地域の高齢者を

ふるさと学校

地域をあげて子どもを育てる活動

一 はじめに

昭和三十年に三つの村が合併して三和村となりました。小学校は旧地区に各校ずつあり、里公、上杉、美守小学校の三校、中学校は三和中学校一校です。

地形的には、平坦で昔から農業中心の稲作、単作地帯の純農村。最近では工業団地や住宅団地等造成しています。

高齢化（六十五歳以上率二十三、八％）で、少子化傾向ではありますが人口はわずかながらではありますが増えています。

二 経過

平成四年度に「ふるさと学校」を開校しました。それまでは公民館が高齢者教育で行っていた「寿大学」の中で、異世代交流として年一回子ども達と田植等の活動を行っていました。

（寿大学は昭和四十七年より高齢者学級として始め、昭和五十一年に寿大学と改称して現在に至っています。）

しかし、それぞれ独自の計画があり、学校は本来の教育目標があります。寿大学とし

ても受講者は全村からであり、学校への指導者は自分の母校あるいは孫がいるということとで親近感もあり各地域から個別に指導者をお願いしてきました。

三 事業の目的

豊かな心と心身ともにたくましい子ども達の育成と高齢者の社会生活の充実をめざし、高齢者の体得した知識や知恵、技能、生活体験等を学校教育活動に積極的に活用するとともに、高齢者と小中学生との交流を図ることを目的としました。

四 実践例・プログラム

計画立案（前年度に予定を事務局に提出）

- ・各学校の担当者が中心になつて実施計画を立てる。（指導者の役割・子どもとの関わりを明確にする）
- ・実施計画は事務局へ一部提出。
- ・事務局は各学校の担当者と打ち合わせ会を開催する。（四月）

指導者への協力依頼、事業案内

- ・事務局は全村にチラシを配布して指導者を募集する。
- ・事業予定日の一週間前に学校から指導者に依頼状、案内状を出す。

当日の運営

- ・事務局、学校、指導者と活動の前に簡単な打ち合わせ、活動後には反省会をもつ。
- ・進行は各学校で行う。（児童・生徒に活躍の機会を与える。）

記録

・学校担当者は活動の記録をとり事務局へ提出する。



昔の生活の様子を黒板を使用して語る

五 成果

教育的効果として、知識、技能の伝達だけでなく、子どもと高齢者（地域）相互の心の交流、高齢者への敬愛、高齢者の生きがい等、多くを期待しており展開しています。（相乗効果）

六 課題

現在学校計画にそつて、栽培的活動、歴史的な学習、生活科における指導をし、指導者も高齢者が中心ですが、今後内容の輪を広げて、指導者も地域全体として、より一層子ども達の育成を、そして地域の中の学校になるよう事業を組織していきます。



冬に備えて「冬囲い」を習う中学生

生涯学習最前線



出前行政講座
広神村

広神村では昨年度から学習相談事業の一環として「出前行政講座」を開いています。これは、村が行っている施策や業務を中心に四十ものメニューを用意し、職員が希望者のところまで出向いて学習会を開催するというものです。開講までの経過については各課が出前できるものを検討した後、諸会議で協議し、全庁をあげての生涯学習の推進ということで共通理解を図ってきました。なお、紹介や仲介などの事務は教育委員会が行っています。

当初はあまり活用されませんでした。口コミなどで集落、老人クラブ、グループ、学校などから三十二回の依頼があり、延べ四十一人の職員



が出前をさせていただきました。(受講者数は一二三三人) 時には車座になって冗談が飛び交うシーンもあり、和気あいあいと進めております。

主な内容として、「福祉行政」「医療と薬」「議会のしくみ」「冬の除雪」「ゴミ処理」などがありました。最近では当初設けていなかった「ウォーキング」や「公園整備」などといったメニューの要望があり、改めて「学びの対象は広い」「生活のなかに学びあり」ということを教わるとともに職員自身の生涯学習にもなっております。

これからも、この講座がますます充実・活用され、学習を深めるのは勿論のこと、学社融合や住民と行政、住民同士の交流の機会になり、ひいては、住民参加による村づくりにつながることを目指していきます。

生涯学習の基地紹介



新潟市こども創作活動館
新潟市

この度の教育改革の中では、子ども達の「生きる力」を育む手立ての一つとして、地域社会における教育を一層活性化することが必要であるとされています。新潟市こども創作活動館はこの流れを受けて、新潟市が平成十年四月開設した子どものための施設で、幼児・保護者同伴・小学生・中学生が利用できます。

当館の事業は、創作活動や鑑賞活動に係る事業を主催すること、自由な遊び場を求める個人利用者や子どもたちのための団体に施設を提供することの二本柱からなっています。

まず、創作活動の主なものは次のようです。

- ・創作クラブ：造形チャレンジジA・造形チャレンジジB・やきもの・親子陶芸の四つの「T」を設

け、前期と後期各七回程度の継続的な創作活動を行っています。ここでは、小・中学校の美術教師を中心としたメンターの指導のもとで、学校ではなかなかできない創作活動に子ども達は目を輝かせています。

・創作教室：その都度希望者を募り、土曜や日曜を利用して、一回二時間程度でできる手軽な創作活動と、数回継続してじっくり作品を仕上げる活動とがあります。外部から指導者をお願いすることもあれば、館の職員がお世話することもあり、取扱う題材も対象とする子ども年齢層に応じて、幼児向けの粘土遊びや紙を素材にしたクラフトから、木工や木彫・七宝・陶芸などかなり高度のものまでを取扱います。

次に、主な鑑賞活動に関する事業です。

鑑賞活動は市内外で活躍する人達に出演をお願いして、こどもコンサート・演劇・人形劇・ミュージックショー・腹話術・パネルシアター・絵本の読み聞かせなど多彩な催しを企画し、子ども達から喜んでもらっています。

テレビやCMなどで手軽にさまざまな芸能に接することができるとはありますが、生の演奏や公演を観賞する体験は貴重です。

豊かな感性を育むためには、幼児期から日常的な遊びを通して創作的活動に触れていくことが大切です。

特集

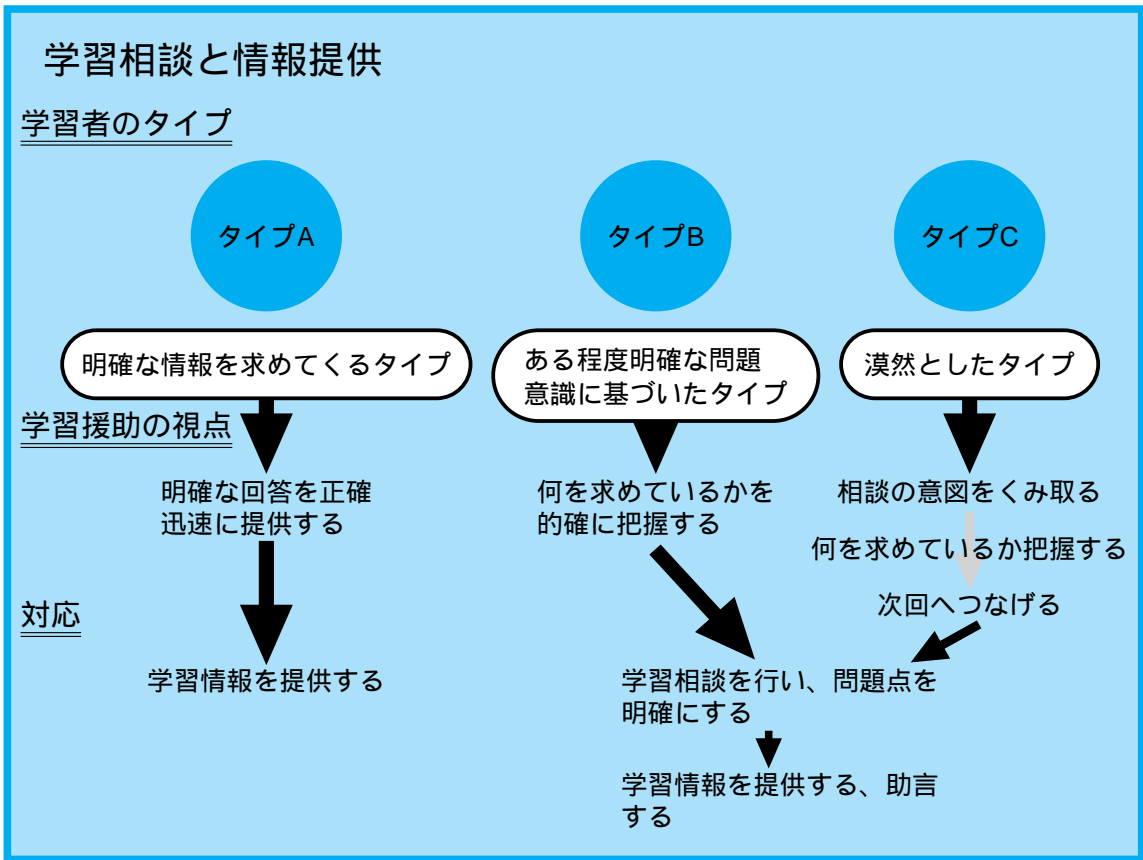
学習相談と学習情報提供のあり方

一 学習相談とは

学習相談は、生涯学習社会に向けて、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習を推進する条件整備、環境作りの一つとして行われるものです。（『学習相談HANDBOOK』横浜市教育局委員会作成二頁より）

二 学習相談の目的

学習相談の主な目的は、学習希望者の潜在的な学習要求を聞き出し、具体的な学習活動にまで引き上げること
 学習活動を行う中で、問題や悩みを聞き、その解決を助けること
 学習者の学習活動の質を高め、継続的なものにする
 とされています。（文部省・学習情報提供システムの整備に関する調査研究協力者会議「生涯学習のための学習情報提供・相談体制の在り方」一九八七年）
 つまり、学習相談とは学習者（学習グループ・団体を含む）が自分自身で解決できない学習上の問題をもった場合に、相談員が学習情報を提供したり、学習の技術や方法を紹介したりしながら、その悩みや問題を解決するのを助ける活動で、一人ひとりが自由に、自らテーマや手段・方法を選んで学習活動を進めていけるように支援するのが学習相談の目的です。（前掲書二頁）



三 課題

学習相談の流れとツールの開発
 学習相談の始まりから終了までの一連の流れをつくることと相談票や相談記録などのツールを整備することによって、どの学習相談担当者が相談に応じても一定の成果があげられるような環境を整備していく必要があります。

学習相談コーナーの設置と相談員の資質
 市町村においては、住民がいつでも気軽に立ち寄って相談したり情報の収集や交換ができるようなスペースを設けることが大事です。

また、学習相談や情報収集・整理にあたる担当者を育成し、より幅広い相談内容に応じられるよう資質を高めていく必要があります。

学習情報の収集・整理と共有

学習相談にあたっては学習者が学習を進めるにあたって必要とされる各種情報を収集しておくとともに、必要に応じてすぐに引き出せるよう整理しておく必要があります。

また、学習者は市町村を越えて広域的に活動している現在、情報の共有を円滑にできるようにしておく必要があります。

はい!学習相談室です

< 学習相談件数は年々増加しています。 >

市町村・学校関係者から

すぐれた公民館活動が学社融合を推進している先進地を視察したい。候補地をさがしてほしい。
 家庭教育の講師をさがしている。
 人材バンクを整理している市町村をさがしている。
 川についての講座を企画したい。同じ川の講座を企画した市町村を紹介願いたい。



個人の方から

何か学習したい。どこから手を着けたらよいか教えてほしい。
 家庭教育の在り方について勉強したい。どこでおこなっているか教えてほしい。
 高齢者向けのパソコン教室はないのか。カウンセラーの資格を取りたい。
 ホームヘルパーの養成学校を知りたい。
 ペットの専門学校を知りたい。

< 閲覧室は情報の広場です。 > どうぞおいでください。

学習相談や生涯学習研修に欠かせないのが書物や資料・情報です。学習相談室とともにある閲覧室では写真に示した文献、情報・資料を用意し、学習相談に正しく対応できるよう、またどなたにも閲覧できるようにしております。
 どうぞ、おいでください。



生涯学習関係の雑誌があります。



生涯学習の書物、国、都道府県、県内市町村の計画書、報告書、調査資料などそろえてあります。

= 編集後記 =

今号の特集では、地域の人材を活用した学習プログラムの事例を紹介しました。また、学習相談の基礎を紹介しました。市町村における生涯学習プログラム作成に活用していただければ幸いです。

なお、財政事情から本年度の印刷による発行は今号が最後となりました。今後は当センターのホームページ上でお届けすることとなります。御不自由をおかけすることとなり、申し訳ありませんが、今後も御協力をお願い申し上げます。



県内112市町村の広報誌、施設パンフ・観光パンフなどのボックス、都道府県のボックスがあります。



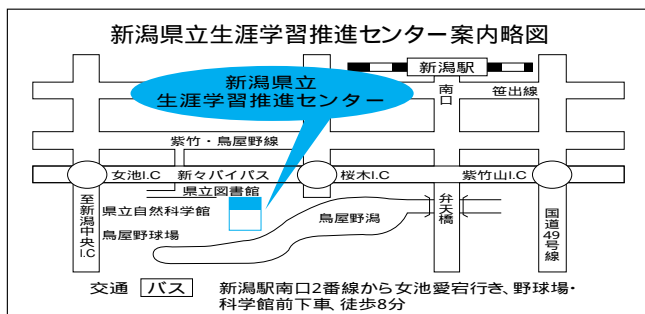
インターネットでラ・ラ・ネットやニルプランなどを見ることができます。



県内の博物館、美術館、東京都の博物館、美術館



観光雑誌「るるぶ」を全国分、お持ち帰りできる講座、講演会、イベントなどのパンフレットやリーフレットなども用意しております。



< 学習相談の御利用はこちら >

新潟県立生涯学習推進センター 電話 025-284-6119
 〒950-8602 新潟市女池2066番地 FAX 025-284-6019